

日 本 ボ ス ト ン 会 報

発行所 日本ボストン会事務局

日米交流150周年を迎えて

会長 井口 武夫

今年、日本と米国との間で日米和親条約(Treaty of Peace and Amity between the United States and the Empire of Japan)が神奈川(現在の横浜)において締結されてから150年が経過した、記念すべき年にあたります。

ペリー提督もニューイングランド出身であり、またこの関係のはじまりは、1841年頃に、ニューイングランドの捕鯨船のWhitfield 船長に救助された土佐の漁師の少年John万次郎が、フェアフェーンで教育を受けて成人し、その後日米交渉に通訳をしたのが縁でした。

その後、岡倉天心、フェノロサが偲ばれるニューイングランドの古都ピーボディ及びボストンの博物館・美術館等は、日本美術や工芸品の宝庫となり、ハーバードやMITには明治以降、近代日本の発達に尽くした多くの学生、学者が学びました。

更に戦後特筆すべきは、ボストンを中心とした産学一体の頭脳集団が、米国の科学産業技術の研究開発の一大拠点となりました。その接点となった日本企業の方々が、現在のボストン会の中心メンバーになっておりますことをご承知の通りであります。

そもそも日露戦争が勃発した明治37年(1904)に、ニューイングランドと日本との間において教育者、実業家、公的・文化的な関係者を交えた交流を目的として、ボストン日本協会(The Japan Society of Boston)が創設され、今年はその100周年を迎える記念すべき年になりました。

過去150年間、日米の幅広い分野での交流が深まり、日米の友好と理解を促進する上で、ボストンを中心とするニューイングランドの果たした役割は大きいと思います。

我々の集いも、茂木賢三郎前会長が「ボストン大好き人間」の集いとして述べられたとおり、親睦活動を中心としております。1998年に、会員有志の寄稿を纏めて「日本・ニューイングランドの交流の歴史」を発行して、歴史を観る活動にも関心を向けて参りました。

今年になってから、谷口禎一元総領事から、ボストンで日米交流に戦前から尽くされた方々が作成・保存してきた、ボストンの日本人留学生の会合記録4冊が回付されてきました。1908年から1954年までの記録ですが、終戦後の1冊が欠落、日時が飛び飛びだったりして、人名だけの記録の部分が多いのですが、記録としては現在では唯一の貴重なものと思われまふ。それで判る範囲での活字化を計れば、過去の記録が把握され、歴史の空白の頁が補充されて「思い出」がよみがえるのではないかと考えます。

そこでこの記録にご記憶の有る方のお申し出と助力をお願いし、ご協力を得られるならば望外の幸せと思ひます。また、会員の皆様には今後の作業の進展をはかる上でのお知恵をお借りしたく、よろしくお願ひ申し上げます。

総会・懇親会のお知らせ(同封チラシ参照)

日時: 平成16年11月12日(金) 午後6時開場、午後6時半開会、午後9時閉会。

場所: NEC三田ハウス芝クラブ(JR田町駅、都営地下鉄三田駅下車)

港区芝5-21-7、☎03-5443-1400

出席者: 当日払い お一人 6000円 同伴者 5000円

事前送金 お一人 5000円 同伴者 5000円

送金方法:

申し込み先: 日本ボストン会事務局(同封ハガキ、又はE-mailにて10月31日までに
お知らせ下さい。

日本ボストン会の活動はホームページにてご覧下さい。http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~boston/

観桜会

2004年お花見の会報告

三好 彰

お花見の会の幹事を仰せつかったときに、桜の開花時期が年毎に変動するのが苦勞の種だと知らされた。古い資料を見ていたら、明治時代の天皇主催の観桜会が葉桜の時期に開かれたこともあったのを知ったが、やはり花の咲く時期に開きたいと思った。

一口に桜と言っても、種類によって咲く時期が異なる。学生時代を過ごした京都には御室(おむろ)の桜と言って、仁和寺で4月下旬に咲くヤエザクラを愛でることが古くからの風習としてある。ソメイヨシノとヤエザクラの両方が育てられているところなら、サクラの咲く時期が長くなり、開花時期に振り回されることが少なくなると考えて都内の場所を探した。

上述の明治時代の観桜会は浜離宮で開かれたことが多いが、震災と戦災の影響で当時とは様子が違っており、現在はヤエザクラも多いのが分かった。また昨秋の「歴史を飲む会」で浜離宮を訪れたが、雨にたたられたものの好評だったのを参考として浜離宮に決めた。日程はヤエザクラをにらんで4月中旬

とし、12月の幹事会で4月17日(土)に決まった。

今年のお花見の会の参加者は23人だった、全員が午後零時半に浜離宮庭園入口にそろった。

新橋地区は再開発が進んで巨大なビルが林立するようになったが、園内は舗装されておらず、自然を大切にしているのが喜ばしい。歩くにつれて、こぼれんばかりに満開の花を風に揺らせたヤエザクラの大樹が次々に現れた。飲酒が禁じられていて、園内で宴会が開かれていないのも花を見るのに好ましかった。サクラのほかにフジやボタン、それにオドリコソウやカントウタンポポなどの野草も咲き誇っていた。また園内でコーラスと江戸太神楽も行われており、行楽に色を添えた。当日は快晴で季節外れの暑さであり、園内を一周すると汗ばむほどであった。

会食は浜離宮の裏手にある芝弥生会館で行った。高層階にある会場から浜離宮に点在するサクラの木々が手に取るように見えた。冷えた飲み物で散策で潤いた喉を潤して無上の喜びを分かちあった。一息ついたところで、サクラに関する季語のクイズ(別掲)に興じた。(3頁に紹介)。

なお幹事会で参加費を事前徴収をするようにのご提言を得て今回から実施したが、会食場所を確保するうえで参加者数を事前に把握できて好都合であった。(来年は4月16日土曜日の予定。)



観桜会

お花見の会のクイズ

桜で始まる言葉で、俳句の季語になったものを探すクイズです。その中から4つを紹介する。各問いには3つの言葉がありますが、正解の季語はそのうち一つです。各質問の答えを選んで下さい。(答 頁)

①	さくらます	桜鱒	日本近海固有の魚で、河川生活をするものはヤマメと呼ぶ。
	さくらだい	桜鯛	桜の咲く頃、産卵のために内湾の浅い所に群集する鯛。
	さくらみそ	桜味噌	牛蒡や生姜などを切り込んでまぜ甘味を加えたなめ味噌。
②	さくらえ	桜会	平安時代から鎌倉末期まで、桜の咲く頃に行われた法会。
	さくらだ	桜田	桜花の多く咲いている所。
	さくらがり	桜狩	桜花をたずねあるいて鑑賞すること。
③	さくらごろも	桜衣	桜襲(さくらがさね)の衣。
	さくらかざし	桜挿頭	桜花を頭上にかざすこと。また、そのもの。
	さくらびと	桜人	花見の人。桜の花をめぐる人。
④	さくらもち	桜餅	小麦粉・白玉粉を練り焼いた皮に餡を入れ桜漬けで包んだ菓子。
	さくらがしわ	桜膳	桜花を散らした三方(さんぼう)に食器を置く膳立て。
	さくらがゆ	桜粥	小豆粥の異称。



東京都内での

紅葉狩りへのお誘い

日本の美しさは四季折々の自然にあります。その中でも春の桜と秋の紅葉は格別な味わいを持っています。日本ボストン会ではお花見の会を当初から催し、ボストンからのおお客様を含め多くの参加者で春を楽しんできました。

ボストンに住んだ多くの人にとってニューイングランドの紅葉の美しさは忘れがたいものと思います。グレーターボストン界隈は勿論、メープルやシュガーブッシュの紅葉に彩られたバーモント州のグリーンマウンテンなどは、さながら天国にいるようでしたね。

一方、日本の紅葉は松などの常緑樹と紅葉が融合し、五色模様の特異な風情があります。紅葉は北海道の阿寒湖、東北の十和田湖、関東では日光などと思いましたが、意外や意外、東京都内にも素晴らしい紅葉のあることを発見しました。

昨年我々夫婦と幸野幹事の3名で12月7日(日)新宿御苑を散策しました。散策には1時間半程度が適切で、先ずは入り口の新宿口の銀杏ともみじの紅葉は素晴らしく、多くの写真愛好家が集まっています。その他御苑内には多くの紅葉の見所があり、是非皆さんに紹介したいと思います。ご覧になってはとお勧めします。12月では少しピークを過ぎた感じなので、今年は次の日程で行います。

日時： 2004年11月28日(日)
午後2時集合
集合場所： 新宿御苑新宿口
会場： 新宿御苑
懇親会場： 新宿ライオン (☎03-3352-6606)
新宿三越裏
会費： 約3,000円
お問い合わせ・参加申込先： 藤盛紀明・富美子

第20回ゴルフ大会案内

本年第2回、通算第20回の日本ボストン会ゴルフ懇親会を下記のとおりご案内いたします。

本会発足以来の20回目という大会ですので、これまで参加された方も、初めての方もふるってご参加下さい。

日時： 10月28日(木) 午前7時30分集合
1組目TEE-OFF : O U T 午前8:00
合計6組24人予約済み。

場所： レイク相模カントリークラブ
山梨県北都留郡上野原町柵原5000
中央自動車道、上野原ICから7km

費用： プレー費： 12,500円(特別料金です)
モーターカート希望の場合は1,050円増

参加費： パーティ代、賞品代、キティチップ等：
5,000円

クラブバスをチャーターしますので、JRでのご乗場をお勧めします。

行き：	新宿発	6:03	(立川乗換)
	立川発	6:46	
	八王子発	6:58	
	上野原着	7:22	
	" 発	7:25	(クラブバス)
	クラブ着	7:40	
帰り：	クラブ発	16:10	
	上野原発	16:38	
	八王子着	17:09	
	立川着	17:21	
	新宿着	18:00	

JR料金： 新宿 上野原 950円。
八王子 上野原 400円。

参加を予定される方は9月24日(金)までに近藤までEメール、ファックス、電話等でご連絡宜しくお願いいたします。

連絡先：近藤宣之

お花見の会のクイズ(3頁)の答え	
1	狙板に鱗ちりしく桜鯛 正岡子規
2	思い立つ木曾の四月の桜狩 松尾芭蕉
3	淡雪に十六日の桜人 村上霽月
4	三つ食へば葉三片や桜餅 高浜虚子

なお、前回4月8日の泉カントリー・クラブおけるコンペ参加者は15名、入賞者は次の通りです。

1位： ネット73(グロス88) 伊藤英徳
2位： ネット76(グロス104) 西川文夫
2位： ネット76(グロス94) 山崎 恒
BB： ネット90(グロス118) 伊藤敦子
BG： ネット73(グロス88) 伊藤英徳

Japan Society of Boston イベント・カレンダー

2004年後半の主要な行事

2004年7月

*平成中村座公演：「歌舞伎・イン・ボストン」
(7/8 ~7/10 於エマソン・カレッジ ホラー・マジスティック劇場)
「連獅子」および「棒しばり」

*第14回日米草の根サミット (7/15~7/19)

①J.F. ケネディ・ライブラリー&博物館

7月15日午後4時オープニング・セッション

「日本とニューイングランド」

講演 J. C. ペリー教授 (タフツ大学)

阿川直之 (日本大使館)

G. パッカー (米日財団)

同日午後6時開会レセプション。

②ニューイングランド各地

ホーム・ステイ実施、7月16日~18日

③ニューベッドフォード捕鯨博物館

7月19日午後3時終了セレモニー

「太平洋の出会い：アメリカ捕鯨、万次郎、そして日本開国」

同日午後5時レセプション。

*ロードアイランド州ニューポート

「黒船祭り」：神奈川条約 (日米和親条約) の締結
(1854) から150周年を祝う。

同8月

*タングルウッド音楽祭

小沢ホール完成10周年記念夏期バスツアー (8/1)

小沢征爾指揮によるタングルウッド音楽センター
・オーケストラおよびボストン・シンフォニー・
チェンバロ奏者の演奏。

同9月

*ビジネスセミナー：日本企業におけるイノベーションと「ポーター賞」 (9/10於チャールズ・ホテル)

①2003年受賞企業3社経営トップによる発表

★スルガ銀行

★島野工業

★トレンドマイクロ

②ハーバード大学マイケル・ポーター教授講演

③一橋大学教授竹内宏高教授講演

2000年に「ポーター賞」創設

*「MITとブロードウェイの出会い」

ジョン・ダワー教授と宮本亜門氏と対談 (9/22)

(於ボストン美術館レミス講堂)

JSBグリーンリ理事長の司会により、宮本氏がブロードウェイで復活公演させたミュージカル「太平洋序曲」(Pacific Overtures)を中心に、両氏が日米の最初の出会いや、両国の文化について語る。

(JSB、ボストン美術館、日本総領事館共催)

(MITダワー教授、宮川教授共同制作によるウェブ展示「Black Ships and Samurai」参照可：

<http://www.blackshipsandsamurai.com>)

同10月

*酒に関する講演と試飲会 (10/1)

(於JSB)

*JSB 創立百周年記念シンポジウム

(全米日米協会連合会共催) (10/28 ~10/30)

①J.F. ケネディ・ライブラリー&博物館

★10月28日午後6時半

歓迎レセプション

★10月29日正午~午後5時ワークショップ

基調講演 (正午~午後2時)

MITサミュエルズ教授

ワークショップ (午後2時半~5時)

全米日米協会連合会による

②ニューベッドフォード捕鯨博物館における

記念シンポジウム「太平洋の出会い：ジョン万次郎と日米関係の起源」

★10月30日午前9時半より

挨拶 JSB ピーター・グリーンリ理事長

★ジョン万次郎ツアー、同日午後1時~3時

★終了レセプション、同日午後5時より

同11月

*陶磁器シンポジウム (11/5~8)

同12月

*「能と狂言公演」 (12/7)

(於ジョンハンコック・ホール)

1879年に訪日したグラント大統領夫妻が、アメリカ人として初めて観た能・狂言を再演する。

(梅若六郎監修：国際交流基金、文化庁、外務省後援)

開設2周年を迎えるホームページ

佐藤 文則

この会報が皆様のお手元に届く10月初旬、日本ボストン会のホームページは開設二周年を迎えます。2002年10月から2年間、7月にはトップページのヒット数、つまり、ページをご覧いただいた回数が2万回を超えました。今日は、2年前にこのホームページが作られることになった経緯と、先に行った利用者調査の概略をお話したいと思います。

日本ボストン会を知っていただくために

日本ボストン会には以前から、年2回発行されるこの会報と、電子メールのメーリングリスト [baj] というふたつのメディアがありました。しかし、これらはどちらも会員向けのものでしたので、別に、広く一般の方々に会をご紹介するホームページを作ることになりました。

ところが、アイディアは出たのですが、幹事はどれもホームページなど作ったことがありません。担当の引き受け手がないまま幹事会を重ねて2002年6月、ふたたびホームページが議題に上ったとき、とうとう私がお引き受けすることになってしまいました。幹事会“年長組”の皆さんが「佐藤さん、お願いしますね」、「そうですね、9月までをお願いしますね」とかなんとか、にこやかに、しかしきっぱりと、この問題はこれでお仕舞いというようにおっしゃるのに、年少組の私はとてもノーと申し上げられなかったのです。

会員にも利用していただけるホームページを

一般の方々に会をご紹介し入会をお誘いする目的で企画したホームページですが、会員の皆様にも利用していただきたいと、同好会活動のご案内なども掲載することにしました。現在、お花見をはじめ、ハイキング、美術館訪問、ゴルフ懇親会など、同好会の催しは、企画がまとまり次第ホームページでご案内しています。

でも、興味のある催しが見つかって、それはいいけどどんな様子なのだろうと、初めは参加を躊躇してしまうものです。その時は、その同好会のページをクリックしてみてください。これまでの催しのレポートや写真が掲載されているはずですが、それをご覧になれば催しの雰囲気がおわかりになって、気軽に参加していただけるのではないのでしょうか。

来訪者は、一般が3/4、会員が1/4

5月にホームページの利用者調査を行いました。トップページのヒット数は毎月1,000回前後ですが、調べてみると、その4分の3は会員以外のアクセスでした。Yahoo!などの検索サイトや他のホームページのリンクで日本ボストン会を見つけて来た人たちです。つまり、毎月新たに700人位の人たちが「日本ボストン会って、なに?」とホームページを訪れてくださっている計算になります。そして、残りの4分の1が会員のアクセスということになります。

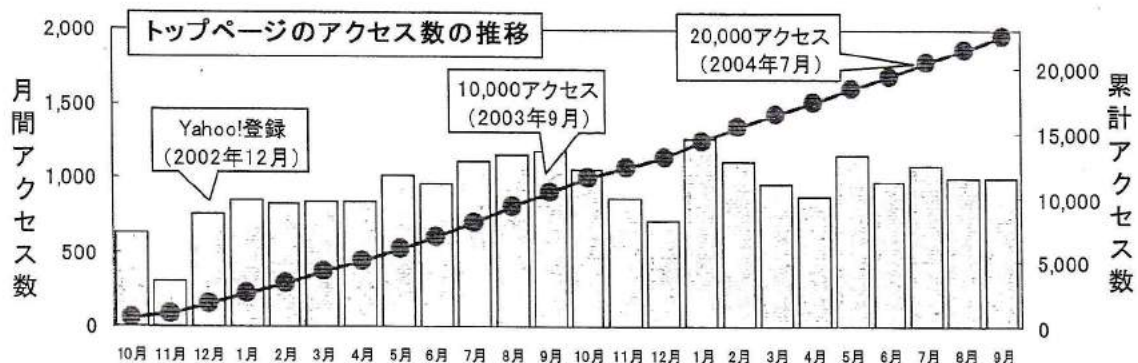
会員の獲得と活動の活性化のために

ホームページを作り始めた2002年の夏休みは、休みの最初の日にソフトと参考書を買ってきて、それから丸一週間、朝から晩まで、作っては壊す試行錯誤の連続でした。なにしろ、ホームページ作りは初めてでしたから。その後も、夏休みや年末年始休暇、そしてたまの週末をあてての作業で、担当はけっこうたいへんです。それでも、幹事会で事務局から入会者の報告を受けたり、ボストン日本人会から委託されている『ボストンへようこそ』の頒布数が増えているという話を聞くと、良かったなと思います。

ホームページは、これからも一層内容の充実を図ってまいります。皆様も、ホームページをご覧になって、会の活動へ参加される切掛けとしていただければなによりです。

ホームページのアドレス (URL)

<http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~boston/>



ハイキングの会

東京都庭園美術館訪問記

からき田道と

吉田 紀子

小山田緑地をあるく

當間 秀雄

皐月晴れに、新緑の万葉の古道を歩き、山崎邸で打ち上げパーティという楽しい一日でした。

5月1日午前9時30分、京王線多摩センター駅に全員11名が集合後、街並みを10分ほど歩き、新緑のからき田道に入りました。

程なく標高143mの見晴台、ここは多摩ニュータウンから新宿高層ビルが眺望できるところ。

木立の中の散策路を、途中、鳥の声を聞きながら「寺の入の湧水」へ。ウグイスはまだ「ケキョケキョ」と練習中。「草花園」、「砦山」、「百本桜」など春の頃を想像しながらのハイキングでした。

1時間半のほど良い散策コースです。

後半は大妻学院前を通り、小山田緑地へ。ここはその名が示す通り、小山田に残された多摩丘陵の自然を緑地として保全し、自然を満喫して散策を楽しむ絶好のコースでした。

途中横切るゴルフ場との共存、共栄は、今時、いたし方ないところでしょう。ゴルフの会の常連は、すかさずナイスショットと声を掛けた次第。

三寸あやめの咲きだしを愛で、トンボ池でしおからトンボを発見し、みはらし広場で満開のニセアカシアの花の下で、銘々の弁当を広げ、談笑という寛ぎの時を満喫しました。

食後は小山田の谷。池あり、吊り橋ありで、快適な林間の小径。ご近所さんが孫連れ、犬連れで散歩、子供はアサザ池でザリガニ捕りに夢中、といったところです。

最後は山崎邸で打ち上げ。男性陣は途中で飲物を仕入れ、脚をのばして乾杯。キッチンに直行したミセス山崎の用意した美味・珍味(レバノンのパスタ料理など)を堪能、次回のプラン等話を咲かせました。



2000年4月、多摩森林科学園のハイキング以来、義母の在宅介護のために、しばらくボストン会の集いに御無沙汰しておりました。

今回はご縁があり、6月19日土曜日午後1時半に東京都庭園美術館前に集合、午後2時から開催されるミュージアム・コンサートでピアノとフルートの演奏を1時間鑑賞後、美術館にて開催中の「シルクロードの装い」展覧会で中央アジア・シルクロード地域(ウズベキスタン、トルクメニスタン、キルギス、タジキスタン、カザグスタン)の伝統的な染織・衣装の展示品に接し、同時にこの地域の伝統美を現代パリの最新モードに取り入れたファッションを合わせて楽しむことにしました。

会場はJR目黒駅から歩いて約7分、高速道路沿いの緑の森の正門入口で酒井夫妻、俣野夫妻、生田さんと私共夫婦が時間通りに落ち合いました。

門からアール・デコ調の元朝香邸の玄関まで砂利道を少し歩きますが、ファッション関係の男女の若者達が多数集まってきていました。

コンサートが午後2時開演のために、建物の奥に作られた約200人程度は入るホールには、子連れの家族グループが多数詰めかけていました。

出演者はフルートが鈴木佐英子さん、ピアノは谷有希子さん、お二人ともヨーロッパでの演奏経歴を持つ新進の演奏家で、曲目はバッハ、ラフマニノフ、ガーシュイン等馴染みある作曲家の曲を身近かに、素晴らしいソロや合奏で聞かせて戴きました。

実は私は最近、フルートを習い始めましたので、プロの演奏を身近かに聞いて感激でした。

その後、「シルクロードの装い」の展示品と建物を鑑賞中に佐藤(文)さんにもお会いし、後で外に出ると、都会の中のオアシスといった風情で、建物・庭の自然と彫刻が楽しめる庭園でした。

最後は庭園美術館を出て少し歩き、ラ・ボーエムでイタリア料理を楽しみました。隣の席では若いカップルの披露宴が開かれていて、贅沢な半日でした。



名古屋ボストン美術館近況

館長 山口 静一

4階の企画展フロアは「ボストンギャラリー」、5階常設展示場は「オープン・ギャラリー」となりました。ボストンギャラリーでは開館5周年記念展の「ドラクロアからムンクまで」に引き続き、10月2日から「アメリカン・モダニズム：オキーフとその時代」（来年2月20日まで）を開催します。

キュビスム、フォービズムなど20世紀の前衛美術は、アメリカでも多くの革新的な画家たちを生み出しました。

抽象表現の先駆的存在アーサー・ダヴ、色彩豊かな幻想的画風でファンを魅了したジョージア・オキーフら、激動する時代をそれぞれ斬新な手法で表現した19作家、46作品が展示されます。戦時中をアメリカで過ごした国吉康雄の作品2点も含まれています。なお来年1月22日には、慶応義塾大学教授松本典久氏の講演「新しいアメリカ美術の胎動」を予定しています。

「オープン・ギャラリー」では5年間の継続展示に代わって年数回、より幅広い展示、紹介を試みます。12月5日までは「美への散策」、古典古代から現代まで、各時代に花開いた西洋美術を概観します。今回は1月～2月の「美しき日本の絵はがき展」で、当館を皮切りに京都、東京（通信総合博物館）を巡回。来年は3月19日から愛知万博と合わせて第13回企画展「ボストン美術館の巨匠たち」が始まります。〈人間のすがた〉の表現に焦点を当てた古今東西の名作76点は、日本中に大きな感動をもたらすことでしょう。

当館は米国ボストン美術館の姉妹館として、その名品の展示に最大限の努力を続けています。しかしバブル崩壊後の経済不況が祟って、基金の運用益や入館料収入だけでは、ボストン美術館への寄附金を中心とする運営費を賄うことができず、一昨年大手企業から追加支援を受け、さらに内部改革と米国ボストン美術館との契約変更により、2008年度までの運営は何とか可能になりました。

折角築き上げたこの日米文化交流の具体的事業を2009年以降も存続させるため、幅広い法人、個人の支援によって財政基盤を確立したいと、現在全スタッフが賛助会員の拡充に努力しているところがあります。

賛助会員募集は名古屋市や愛知県に限らず、全国規模で展開させたいと考えておりますので、何卒趣旨をご理解賜り、まずは会員の皆様のお力添えをお願いいたします次第です。

The Lane Collection and American Modernism

レーン・コレクション アメリカン モダニズム

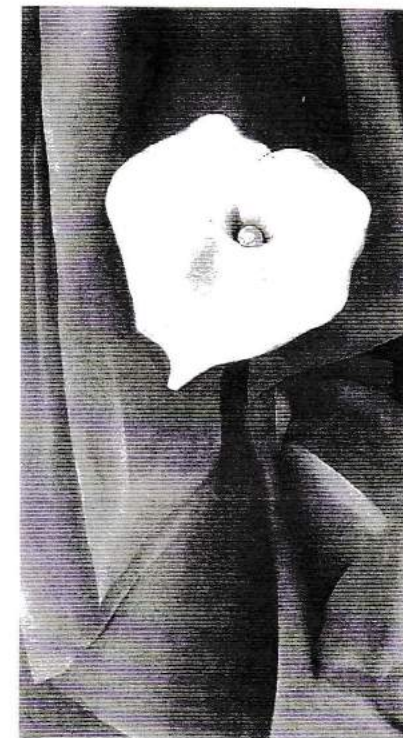
オキーフとその時代

Georgia O'Keeffe and Her Times

2004年10月2日（土）～2005年2月20日（日）



「鹿の頭骨とペダーナール」ジョージ・オキーフ



「ぐれーの上のカラ・リリー」ジョージ・オキーフ
1928年 油彩、61×43.2cm
The Art Institute of Chicago, Gift of the Lane Foundation, 1994. 211
© Museum of Art, Boston, with permission from the Georgia O'Keeffe Foundation

「ぐれーの上のカラ・リリー」ジョージ・オキーフ
名古屋ボストン美術館にて

美術愛好会

旅で出会った絵

3月25日から2ヶ月半余り、Montrealに住む次女宅に滞在、早春から初夏への季節の変化を愛でる人々の生活を眼のあたりにし、心豊かな日々を過ごすことができた。

毎年訪れるMontreal美術館では、5月よりJean Cocteau(1889~1963)展が、パリでの開催後、大々的に催され多勢の鑑賞者で賑わっていた。

Surrealist(超現実主義)映画監督でもあるCocteau自身が演じる奇妙な人が、スクリーン一杯に写し出され圧倒された。次の部屋に移ると、おなじみの彼のデザイン画が大小さまざまに展示され、最初に見た作品への驚きも消え、心おだやかに鑑賞することができた。

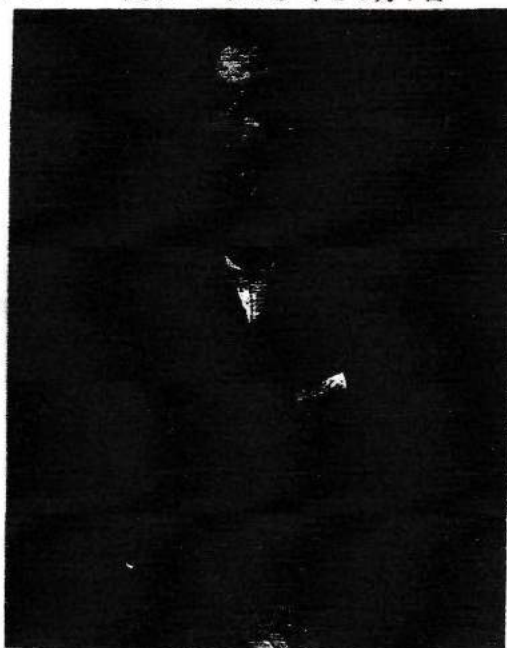
その展示室の一角に1917年頃、モンマルトルで出会ったModiglianiを描いた作品が、鈍いライトの下で輝いていた。モデルModiglianiの着ているスーツは濃い青い色、長く伸びた首に小さな黒い蝶ネクタイ、衿からのぞく白いシャツ、胸のポケットの白いハンカチ、赤い背もたれ椅子に坐るModiglianiの左右の目は極端に違って描かれており、深い悲しみを秘めた表情の様でもある。セザンヌの面ごとの色彩構成と、思考と感性のバランスがみられるフランスのキュビズムの表現が窺える作品であった。

パリ近くで生まれたCocteauは法律家の父を9歳の時に失う。彼の人生の大半は、海浜のリゾート地方プロヴァンス地方で過ごした。Cocteauの死後の1967年、Cocteau Museumがプロヴァンス地方で最も活気のある街、カマルグに設立された。年間約2百万人の人々が世界中から訪れると言われている。

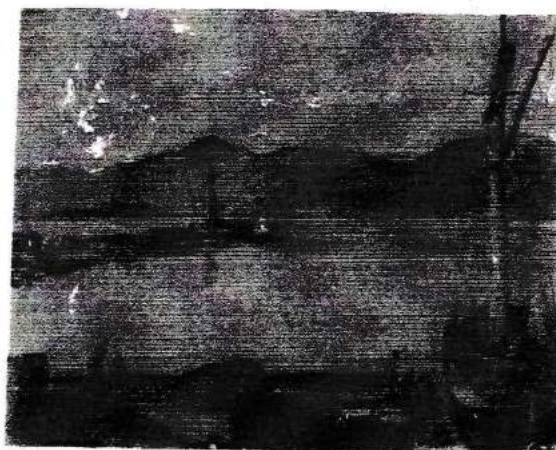
8月10日、横浜の連日うだる様な暑さを逃れて信州へドライブ旅行。途中、メルシャン軽井沢美術館に立ち寄る。丁度、南仏の光を描いた画家達展(1860~1929)が開催(7/11~11/23)されていた。

印象派以前のプロヴァンスの風景画家の作品62点が展示されていた。太陽の光に満ちた明るい色彩の作品が大部分を占めていた。世界中の画家達を絶えず魅了しているプロヴァンス地方、19世紀後半から20世紀前半の最も輝かしい時代を生きたプロヴァンス地方の画家達の作品が、初めて日本の軽井沢にやってきた。

数えきれないほど多くの画家達によって、プロヴァンスのサン＝トロペ港は描かれていた。メルシャン美術館に展示された中からHenri Lebasque(アンリ・ルバスク、1865~1937)の描いたサン＝トロペ



Amedeo Modigliani Jean Cocteau



Port de Saint-Tropez Henri Lebasque

港の色調は、より明るく、色彩豊かで、なんて優しい太陽の光なのでしょう。沈もうとする太陽の輝きをじっとじっくりみていると、何かを暗示させてくれる様な、そんな雰囲気醸し出す様な作品であった。のびのびと力強い筆致は、友人のマチスの影響かも知れない。海の景色は左に沈みゆく太陽の光を浴び、静寂ささえ感じる。中央の大きな樽の伸びる焦げ茶色の影、画面右隅の高く巻き上げられた船の帆が、夕日を浴びて白色を帯びたピンク色をなしている。空に向かってのびる帆の様に、画家の喜びも空に向かってのぼっていくようだ。

数年前に訪れた南仏コートダジュール、ただ、ただ、エメラルド色の海、白い玉石の浜、高い真っ青な空とどの場所を眺めても、絵になる風景に感動を覚えたものだった。機会があれば、是非サン＝トロペのアノンシアード美術館、そしてJean Cocteau美術館を訪ねてみたいと思った。(酒井典子)

日米交流150周年記念

外務大臣表彰

2003年から2004年にかけて、日米両国の交流150周年を記念して、種々の行事が計画されています。その一つとして、日米交流の推進に顕著な功績のあった両国関係者に対して、外務大臣表彰が行われ、ボストン総領事館関係では、次の5名の方々を受章の栄に浴されました。

- (1)織田頼さん(ハーバード大学東アジア学部日本語学科終身講師、日本語教育35年間)。
- (2)加藤洋子さん(全マサチューセッツ州犯罪被害者援助理事会理事、反家庭内暴力活動に尽力)。
- (3)スー・C・ルート氏(マサチューセッツ・北海道協会会長として14年間、スプリングフィールド・滝川姉妹都市協会会長として18年間の貢献)。
- (4)デニス・チャールズ・ワッシュバーン氏(ダートマス大学アジア・中東言語文学部長、日本の古典・現代文学の著作・翻訳・論文を著し、対日理解促進に貢献した他、日本語教育・研究に尽力)。
- (5)古川義子さん(吉野屋経営者、1961年以来、日米交流活動および在留邦人の支援に貢献)。

音楽会のお知らせ

今年は残念ながら、ボストン・ポップスの来日が実現しませんでした。芸術の秋に向けて音楽に親しむ夕べを計画しました。できるだけ多くの人に楽しんでいただきたく、家族や友人をお誘い合わせの上、ご参加下さい。

記

日時: 10月30日(土) 4:00PM開場、4:15PM開演
場所: 日本外国特派員クラブ(JR有楽町駅前)
千代田区有楽町1-7-1 電気ビル北20階
演奏: ピアノトリオ、ベートーヴェン「大公」等
関 尚子ほか。
酒巻則子・篠崎和子による歌曲。
懇親会: 午後6:00~7:30ビュッフェスタイル
参加費: 6,000円
申込み: 音楽の会担当 関 直彦

10月20日までにお申し込み下さい

歌う会: 次回は11月17日(水)、クリスマス
会は12月23日(木)開催を予定。

幹事会記録

日時: 2004年6月10日(月) 午後6時半~9時半

場所: 新宿サミットクラブ

出席者: 18名

*新入会員: 山中文彦氏、村林富美氏、川島裕氏
林陸平氏、(4人)。

*お花見の会: 浜離宮、4月17日(別項参照)。
次回は4月16日(土) 予定。

*ホームページの状況(2年間)報告(別項参照)

*ガイドブック「ボストンへようこそ」:
改訂版50冊を4月に受領した旨報告。

*ゴルフの会: 次回は通算20回目の大会。
於レイク相模カントリークラブ(別項参照)。

*音楽の会: 今年、Boston Pops はアジア方面を
来訪するが、日本はスポンサーが決まらず、来日
しないことになった。別案を検討(別項参照)。

*美術の会: 昨年と同じ東京都庭園美術館で美術
とコンサートを鑑賞、6月19日(別項参照)。名
古屋ボストン美術館は5周年記念を企画している。

*ハイキングの会: 多摩ニュータウンのコースを
散策、5月1日。(別項参照)

*紅葉狩りの会: 新宿御苑、11月28日(土)
(別項参照)。来年は六義園。

*歌う会: 酒巻さん宅にて6月30日に開催。

*ボストン日本人会: 会長が安武和美氏の帰国の
ために、高橋一彦氏に交代。

*総会: 11月12日(金)開催を確認。

*会報発行: 原稿8月末、発行10月7日。

*次回幹事会: 10月1日を9月29日に変更。

日時: 2004年9月29日(水) 午後6時半~9時

場所: 三井霞が関クラブ。

出席者: 18名。

*新入会員: 関野陽氏。(1人)

*井口会長より日米交流150周年を迎え、当会が
入手したボストンに於ける過去の留学生の記録の
保存・復刻につきご相談があり、会報掲載を決定。

*JSB 百周年記念: 祝意は井口会長に一任。

*名古屋ボストン美術館: 2008年以降の財政基
盤確立のために賛助会員の拡充に努力中。協力依
頼あり、趣意書を会報発送時に封入すること決定。
明年愛知万博開催中の5月28/29日訪問企画中。

*お花見の会: 浜離宮、明年4月16日午後4時
集合、懇親会は午後6時開始で予約を決定。

*音楽の会: 10月30日開催(別項参照)。

*いけばなの会: 10月22日東京7月クラブ。参加参照。

*絵を描く会: 世話役決まれば了承。名称検討要す。

*総会(11月12日)ゴルフ会(10月28日)打合せ。